

2016年3月期第2四半期決算の概要

東レ株式会社

2015年11月10日

目次

I. 2016年3月期第2四半期決算の概要

2016年3月期第2四半期連結損益概要	(P3)
営業外収支	(P4)
特別損益	(P5)
資産・負債・純資産、フリー・キャッシュ・フロー	(P6)
設備投資額・減価償却費・研究開発費	(P7)
セグメント別売上高・営業利益	(P8)
セグメント別業績	(P9-16)
営業利益増減要因分析(第2四半期累計期間)	(P17)
主要子会社収益状況(第2四半期累計期間)	(P18)
セグメント別営業利益 1Qvs2Q比較	(P19)

II. 2016年3月期連結業績見通し

2016年3月期連結業績見通し	(P21)
セグメント別業績見通し	(P22)
セグメント別営業利益の前回見通しとの差異	(P23)
設備投資額・減価償却費・研究開発費見通し	(P24)

I . 2016年3月期第2四半期決算の概要

2016年3月期第2四半期連結損益概要

	15年3月期 第2四半期 (7~9月)		16年3月期 第2四半期 (7~9月)		増減		15年3月期 第2四半期累計 (4~9月)	16年3月期 第2四半期累計 (4~9月)		増減		億円
売上高	4,994	5,317	+323	(+6.5%)	9,480	10,286	+806	(+8.5%)				
売上原価	4,015	4,217	+202	(+5.0%)	7,623	8,112	+489	(+6.4%)				
売上総利益	978	1,100	+122	(+12.4%)	1,857	2,174	+317	(+17.1%)				
(売上高総利益率)	19.6%	20.7%	+1.1	ポイント	19.6%	21.1%	+1.5	ポイント				
販売費及び 一般管理費	680	719	+39	(+5.7%)	1,343	1,422	+79	(+5.9%)				
(売上高販管費比率)	13.6%	13.5%	-0.1	ポイント	14.2%	13.8%	-0.3	ポイント				
営業利益	298	381	+83	(+27.8%)	513	751	+238	(+46.4%)				
(売上高営業利益率)	6.0%	7.2%	+1.2	ポイント	5.4%	7.3%	+1.9	ポイント				
営業外収支	43	▲ 12	-54		52	4	-48					
経常利益	341	369	+29	(+8.4%)	565	755	+190	(+33.6%)				
特別損益	▲ 14	▲ 24	-10		▲ 21	▲ 28	-7					
税前利益	326	345	+18	(+5.6%)	544	727	+183	(+33.6%)				
親会社株主に帰属する 四半期純利益	266	233	-33	(-12.4%)	413	494	+82	(+19.8%)				

		(15/3 2Q)	→	(16/3 2Q)	(15/3 2Q累計)	→	(16/3 2Q累計)
為替レート <円/US\$>	期中平均	: 103.9	→	122.2	103.0	→	121.8
	期末	: 109.5	→	120.0			
<円/ユーロ>	期中平均	: 137.8	→	136.0	138.9	→	135.1
	期末	: 138.9	→	135.0			

営業外収支

億円

	15年3月期 第2四半期 (7~9月)	16年3月期 第2四半期 (7~9月)	増減	15年3月期 第2四半期累計 (4~9月)	16年3月期 第2四半期累計 (4~9月)	増減
営業外収益	80	41	-39	125	93	-31
受取利息及び配当金	7	7	+0	25	28	+3
持分法による投資利益	63	18	-45	84	34	-50
雑収入	10	15	+5	16	31	+15
営業外費用	▲ 38	▲ 52	-15	▲ 73	▲ 89	-17
支払利息	▲ 14	▲ 14	-0	▲ 29	▲ 30	-1
休止設備関連費用	▲ 7	▲ 13	-6	▲ 12	▲ 20	-8
雑損失	▲ 17	▲ 25	-8	▲ 32	▲ 40	-8
営業外収支	43	▲ 12	-54	52	4	-48
金融収支	▲ 7	▲ 7	+0	▲ 4	▲ 2	+3

注) 収益はプラス、費用はマイナス(▲)で表示

特別損益

億円

	15年3月期 第2四半期 (7~9月)	16年3月期 第2四半期 (7~9月)	増減	15年3月期 第2四半期累計 (4~9月)	16年3月期 第2四半期累計 (4~9月)	増減
特別利益	2	4	+2	2	8	+6
有形固定資産売却益	2	2	-0	2	3	+1
投資有価証券売却益	-	2	+2	0	5	+5
その他	-	-	-	0	1	+0
特別損失	▲ 16	▲ 28	-12	▲ 23	▲ 37	-13
有形固定資産処分損	▲ 14	▲ 10	+4	▲ 19	▲ 19	+0
投資有価証券評価損	-	▲ 18	-18	▲ 0	▲ 18	-18
その他	▲ 2	▲ 0	+2	▲ 4	▲ 0	+4
ネット特別損益	▲ 14	▲ 24	-10	▲ 21	▲ 28	-7

注) 収益はプラス、費用はマイナス(▲)で表示

資産・負債・純資産、フリー・キャッシュ・フロー

億円

	15年3月末	15年9月末	増減
資産合計	23,579	23,607	+27
流動資産	10,179	10,372	+193
有形固定資産	8,556	8,327	-229
無形固定資産	985	956	-29
投資その他	3,860	3,952	+92
負債合計	12,772	13,118	+346
流動負債	6,009	6,121	+113
固定負債	6,763	6,997	+234
純資産合計	10,808	10,489	-319
有利子負債残高	7,003	7,484	+481
D/Eレシオ	0.71	0.77	+0.06

<フリー・キャッシュ・フローの状況>

億円

	15年3月期 第2四半期累計 (4~9月)	16年3月期 第2四半期累計 (4~9月)	増減
営業活動	43	617	+574
投資活動	▲706	▲667	+39
フリー・キャッシュ・フロー	▲663	▲50	+614

設備投資額・減価償却費・研究開発費

億円

	15年3月期 第2四半期累計 (4~9月)	16年3月期 第2四半期累計 (4~9月)	増減	特記事項
設備投資額	546	491	-55	東レ:78、連結子会社:413
減価償却費 ー)	375	441	+66	東レ:142、連結子会社:299
振替・除却等	▲ 109	▲ 279	-170	
有形固定資産増減	61	▲ 229	-291	
研究開発費	288	287	-0	

主な設備投資:

TAK (Toray Advanced Materials Korea Inc.): PPS(ポリフェニレンサルファイド)樹脂設備

Zoltek (Zoltek Companies, Inc.): ラージトウ炭素繊維設備

TCA (Toray Composites (America), Inc.): 炭素繊維“トレカ®”プリプレグ設備

TCK (Toray Chemical Korea Inc.): ポリエステル短繊維設備

セグメント別売上高・営業利益

億円

	売上高			営業利益		
	15年3月期 第2四半期 (7~9月)	16年3月期 第2四半期 (7~9月)	増減	15年3月期 第2四半期 (7~9月)	16年3月期 第2四半期 (7~9月)	増減
繊維	2,069	2,279	+210 (+10.1%)	122	180	+58 (+47.1%)
プラスチック・ケミカル	1,257	1,335	+79 (+6.2%)	60	81	+20 (+33.7%)
情報通信材料・機器	608	615	+7 (+1.1%)	54	62	+8 (+15.3%)
炭素繊維複合材料	388	450	+62 (+15.9%)	72	77	+5 (+6.6%)
環境・エンジニアリング	491	456	-36 (-7.3%)	23	16	-7 (-28.7%)
ライフサイエンス	143	145	+2 (+1.4%)	12	8	-4 (-34.9%)
その他	38	39	+1 (+1.4%)	5	4	-1 (-11.8%)
計	4,994	5,317	+323 (+6.5%)	349	428	+80 (+22.8%)
調整額				▲ 51	▲ 47	+3
連結	4,994	5,317	+323 (+6.5%)	298	381	+83 (+27.8%)

	売上高			営業利益		
	15年3月期 第2四半期累計 (4~9月)	16年3月期 第2四半期累計 (4~9月)	増減	15年3月期 第2四半期累計 (4~9月)	16年3月期 第2四半期累計 (4~9月)	増減
繊維	3,862	4,358	+497 (+12.9%)	228	350	+123 (+54.0%)
プラスチック・ケミカル	2,462	2,572	+110 (+4.5%)	117	157	+39 (+33.6%)
情報通信材料・機器	1,218	1,250	+31 (+2.6%)	103	120	+16 (+16.0%)
炭素繊維複合材料	766	943	+177 (+23.1%)	118	186	+68 (+57.9%)
環境・エンジニアリング	834	826	-8 (-0.9%)	21	16	-5 (-22.3%)
ライフサイエンス	265	264	-1 (-0.5%)	17	6	-11 (-63.6%)
その他	72	72	-0 (-0.0%)	7	5	-2 (-28.2%)
計	9,480	10,286	+806 (+8.5%)	611	840	+229 (+37.6%)
調整額				▲ 98	▲ 89	+9
連結	9,480	10,286	+806 (+8.5%)	513	751	+238 (+46.4%)

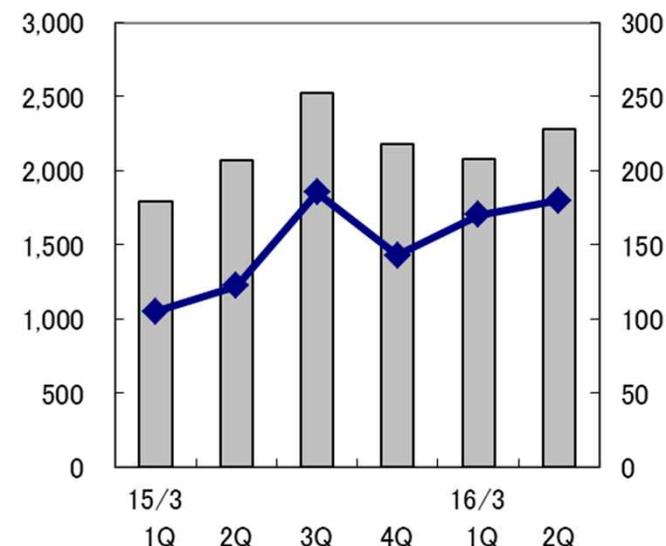
セグメント別業績(繊維)

単位: 億円

		2Q(7~9月)			2Q累計(4~9月)		
		15年 3月期	16年 3月期	増減	15年 3月期	16年 3月期	増減
売上高	東レ	443	499	+56 (+12.7%)	894	980	+85 (+9.5%)
	国内	1,062	1,140	+78 (+7.3%)	1,944	2,081	+137 (+7.0%)
	海外	1,178	1,439	+261 (+22.1%)	2,242	2,823	+581 (+25.9%)
	修正	▲ 615	▲ 800	-185	▲ 1,218	▲ 1,525	-306
	計	2,069	2,279	+210 (+10.1%)	3,862	4,358	+497 (+12.9%)
営業利益	東レ	32	47	+15 (+46.3%)	66	95	+29 (+43.8%)
	国内	30	35	+5 (+15.6%)	46	54	+7 (+15.6%)
	海外	78	115	+37 (+47.4%)	142	235	+93 (+65.8%)
	修正	▲ 18	▲ 17	+1	▲ 26	▲ 33	-7
	計	122	180	+58 (+47.1%)	228	350	+123 (+54.0%)

売上高
＜棒グラフ＞

営業利益
＜線グラフ＞
(億円)



2Q (7~9月)

国内では、需要が低調に推移する中、全般的に拡販に努めるとともに、糸綿／テキスタイル／製品一貫型ビジネスの推進をはじめとする事業の高度化などを進めた。

海外では、欧州需要の低迷や中国内需の伸び悩みの影響を受けたが、中国や東南アジアのテキスタイル子会社が拡販と高付加価値品へのシフトを進めた。

2Q累計 (4~9月)

国内では、衣料用途は需要が低調で、産業用途も自動車関連用途向けの一部で顧客による在庫調整の影響が出る中、全般的に拡販に努めるとともに、糸綿／テキスタイル／製品一貫型ビジネスの推進をはじめとする事業の高度化などを進めることで採算の改善に注力。

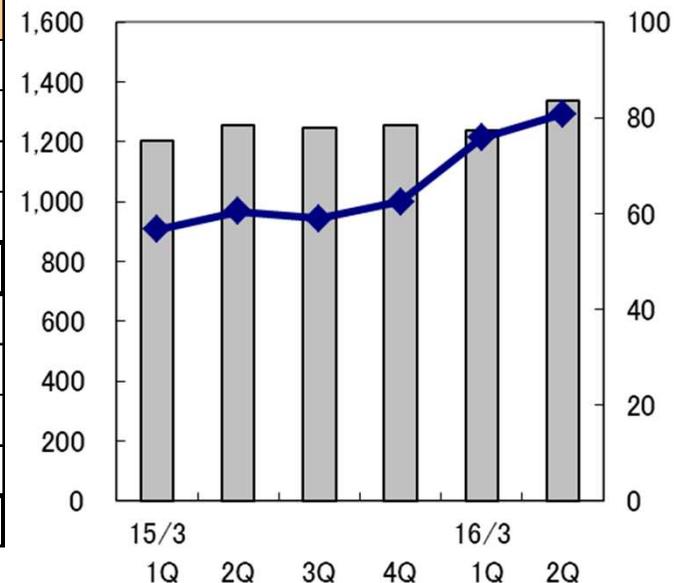
海外では、欧州需要の低迷や中国内需の伸び悩みの影響を受けたが、中国や東南アジアのテキスタイル子会社が拡販と高付加価値品へのシフトを進めた。またエアバッグ用基布や内装材料といった自動車関連用途向けが堅調に推移し、衛生材料向けも東南アジアやインドにおける需要が拡大。

セグメント別業績(プラスチック・ケミカル)

単位: 億円

		2Q(7~9月)			2Q累計(4~9月)		
		15年 3月期	16年 3月期	増減	15年 3月期	16年 3月期	増減
売上高	東レ	356	305	-50 (-14.1%)	711	627	-84 (-11.8%)
	国内	917	990	+74 (+8.0%)	1,812	1,887	+75 (+4.2%)
	海外	931	927	-3 (-0.4%)	1,840	1,870	+30 (+1.6%)
	修正	▲ 946	▲ 888	+59	▲ 1,901	▲ 1,813	+88
	計	1,257	1,335	+79 (+6.2%)	2,462	2,572	+110 (+4.5%)
営業利益	東レ	7	11	+3 (+42.8%)	13	26	+13 (+105.7%)
	国内	23	18	-5 (-22.6%)	45	37	-9 (-19.2%)
	海外	30	53	+23 (+76.7%)	60	95	+35 (+57.3%)
	修正	0	▲ 0	-1	▲ 1	▲ 1	+0
	計	60	81	+20 (+33.7%)	117	157	+39 (+33.6%)

売上高
＜棒グラフ＞



営業利益
＜線グラフ＞
(億円)

2Q
(7~9月)

樹脂: 国内では自動車用途が低調に推移したが、それ以外の用途については概ね堅調に推移。海外では米国の子会社で自動車関連用途向けの出荷が拡大したほか、マレーシアの子会社もABS樹脂の出荷が堅調に推移。

フィルム: 包装用途向けが国内、海外ともに総じて堅調に推移。

2Q累計
(4~9月)

樹脂事業は、国内では自動車生産台数の減少を背景に関連用途向けの出荷が低調に推移したが、それ以外の用途については概ね堅調。海外では米国の子会社で自動車関連用途向けの出荷が拡大し、マレーシアの子会社もABS樹脂の出荷が堅調に推移。

フィルム事業は、包装用途向けが国内外で堅調。また、多くの用途で価格競争の影響を受けたが、高付加価値品の拡販や原価改善に注力することで採算の改善に努めた。

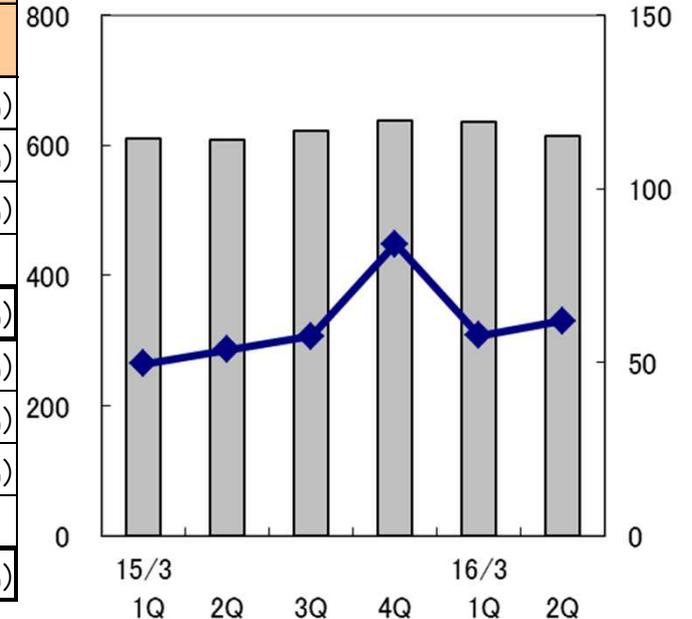
セグメント別業績(情報通信材料・機器)

単位: 億円

		2Q(7~9月)			2Q累計(4~9月)		
		15年 3月期	16年 3月期	増減	15年 3月期	16年 3月期	増減
売上高	東レ	227	218	-8 (-3.6%)	451	428	-23 (-5.2%)
	国内	239	247	+7 (+3.1%)	471	484	+12 (+2.6%)
	海外	247	258	+11 (+4.5%)	494	544	+50 (+10.2%)
	修正	▲ 105	▲ 109	-4	▲ 197	▲ 206	-8
	計	608	615	+7 (+1.1%)	1,218	1,250	+31 (+2.6%)
営業利益	東レ	17	17	-1 (-3.0%)	37	24	-12 (-33.4%)
	国内	20	21	+1 (+4.9%)	35	37	+2 (+6.5%)
	海外	24	31	+7 (+27.9%)	47	72	+25 (+53.4%)
	修正	▲ 8	▲ 7	+1	▲ 16	▲ 14	+1
	計	54	62	+8 (+15.3%)	103	120	+16 (+16.0%)

売上高
＜棒グラフ＞

営業利益
＜線グラフ＞
(億円)



2Q
(7~9月)

大型液晶パネル向けでは、フィルム・フィルム加工品等の関連材料は顧客の生産調整の影響を受けた。スマートフォンやタブレット端末向けでは、電子部品、回路材料向け等を中心に堅調に推移。一方で、各材料とも引き続き価格競争の影響を受けており、原価改善などにより採算の維持に努めた。

2Q累計
(4~9月)

大型液晶パネル向けでは、大画面化が進展し4Kテレビの需要も拡大したが、フィルム・フィルム加工品等の関連材料は顧客の生産調整の影響を受けた。スマートフォンやタブレット端末の関連材料は、韓国の子会社で高機能回路材料の出荷が拡大するなど、堅調に推移。一方で、各材料とも引き続き価格競争の影響を受けており、原価改善などにより採算の維持に努めた。

情報通信材料・機器セグメントの売上高の詳細

【サブセグメント別売上高推移】

単位：億円

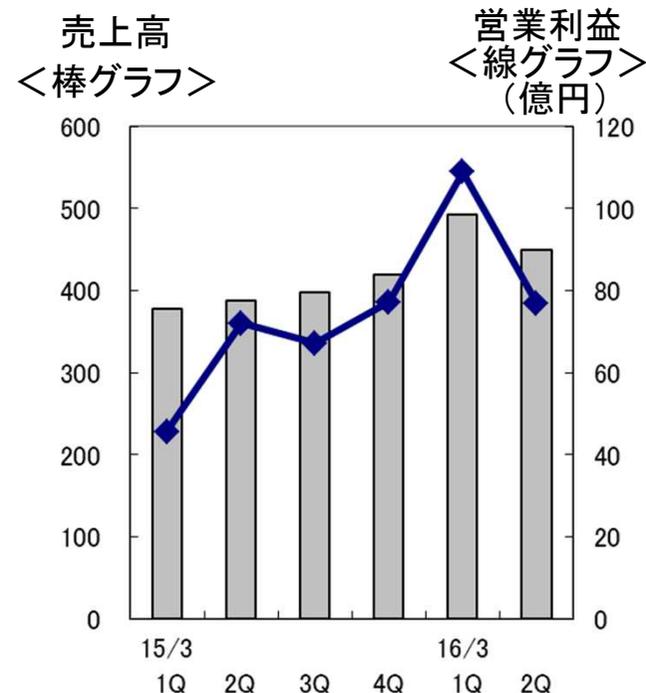
	15年3月期第2四半期 (7～9月)		16年3月期第2四半期 (7～9月)		
	売上高	比率	売上高	比率	増減率
ディスプレイ材料	209	34%	177	29%	-15%
電子部品・半導体・回路材料	267	44%	306	50%	+15%
記録材料	83	14%	77	13%	-7%
機器他	49	8%	54	9%	+11%
合計	608		615		+1%

	15年3月期第2四半期 累計 (4～9月)		16年3月期第2四半期 累計 (4～9月)		
	売上高	比率	売上高	比率	増減率
ディスプレイ材料	421	35%	359	29%	-15%
電子部品・半導体・回路材料	532	44%	637	51%	+20%
記録材料	159	13%	156	12%	-2%
機器他	106	9%	98	8%	-8%
合計	1,218		1,250		+3%

セグメント別業績(炭素繊維複合材料)

単位: 億円

		2Q(7~9月)			2Q累計(4~9月)		
		15年 3月期	16年 3月期	増減	15年 3月期	16年 3月期	増減
売上高	東レ	237	261	+25 (+10.4%)	466	532	+66 (+14.1%)
	国内	149	199	+50 (+33.5%)	296	398	+102 (+34.6%)
	海外	337	401	+64 (+19.0%)	670	841	+172 (+25.6%)
	修正	▲ 334	▲ 411	-77	▲ 665	▲ 828	-163
	計	388	450	+62 (+15.9%)	766	943	+177 (+23.1%)
営業利益	東レ	42	48	+6 (+15.2%)	80	109	+29 (+36.1%)
	国内	2	3	+1 (+46.7%)	4	5	+2 (+48.5%)
	海外	31	43	+12 (+39.4%)	50	93	+43 (+85.1%)
	修正	▲ 3	▲ 17	-15	▲ 16	▲ 22	-5
	計	72	77	+5 (+6.6%)	118	186	+68 (+57.9%)



2Q (7~9月)

レギュラートウ炭素繊維及び中間加工品(プリプレグ)の販売は、航空宇宙用途や圧縮天然ガスタンク等の環境・エネルギー関連用途を中心に好調に推移。パソコン筐体向け成形品や燃料電池車向け等も堅調に推移。なお、2014年後半および2015年前半に生産を開始した新規設備が増産と拡販に寄与。また、米国のラージトウ炭素繊維子会社では、主力の風車用途向けに出荷が拡大し、航空機のブレーキに使われる耐炎糸の出荷も堅調。

2Q累計 (4~9月)

レギュラートウ炭素繊維は、航空機需要の拡大や圧縮天然ガスタンクなど環境・エネルギー関連需要の拡大を背景に、航空宇宙用途や一般産業用途向けに炭素繊維及び中間加工品(プリプレグ)の出荷が拡大。また、2014年後半および2015年前半に生産を開始した新規設備が増産と拡販に寄与したほか、燃料電池自動車向けの製品の出荷が本格的に開始。米国のラージトウ炭素繊維子会社では、主力の風車用途向けに出荷が拡大し、航空機のブレーキに使われる耐炎糸の出荷も堅調。

炭素繊維複合材料セグメントの売上高の詳細

【サブセグメント別売上高推移】

単位：億円

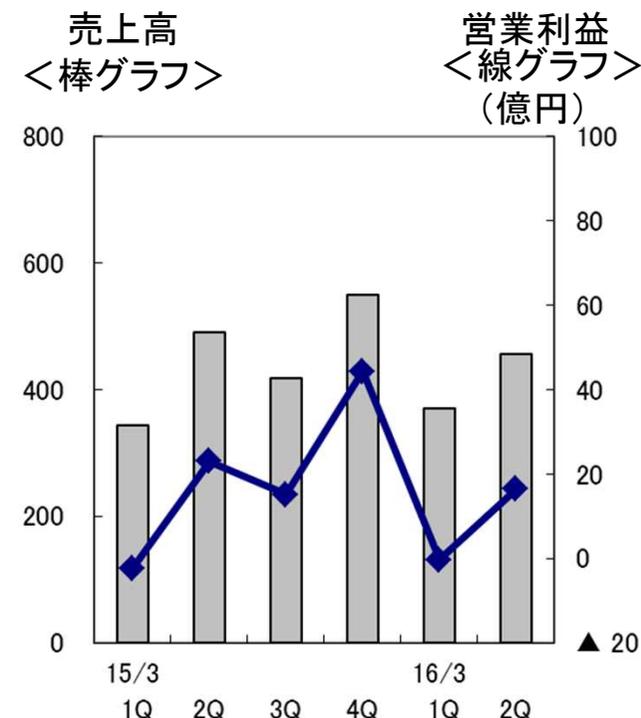
	15年3月期第2四半期 (7~9月)		16年3月期第2四半期 (7~9月)		
	売上高	比率	売上高	比率	増減率
航空宇宙	194	50%	225	50%	+16%
スポーツ	41	10%	42	9%	+3%
一般産業	154	40%	183	41%	+19%
合計	388		450		+16%

	15年3月期第2四半期累計 (4~9月)		16年3月期第2四半期累計 (4~9月)		
	売上高	比率	売上高	比率	増減率
航空宇宙	375	49%	481	51%	+28%
スポーツ	78	10%	86	9%	+11%
一般産業	314	41%	376	40%	+20%
合計	766		943		+23%

セグメント別業績(環境・エンジニアリング)

単位: 億円

		2Q(7~9月)			2Q累計(4~9月)		
		15年 3月期	16年 3月期	増減	15年 3月期	16年 3月期	増減
売上高	東レ	67	55	-11 (-16.7%)	116	102	-14 (-12.3%)
	国内	564	522	-42 (-7.4%)	967	912	-56 (-5.8%)
	海外	60	64	+4 (+6.3%)	117	137	+20 (+16.7%)
	修正	▲ 200	▲ 186	+14	▲ 366	▲ 323	+43
	計	491	456	-36 (-7.3%)	834	826	-8 (-0.9%)
営業利益	東レ	3	5	+2 (+61.6%)	2	7	+5 (+218.9%)
	国内	18	5	-13 (-70.3%)	14	▲ 5	-19 (-)
	海外	4	8	+3 (+74.3%)	7	17	+10 (+140.9%)
	修正	▲ 2	▲ 2	+1	▲ 2	▲ 3	-1
	計	23	16	-7 (-28.7%)	21	16	-5 (-22.3%)



2Q
(7~9月)

水処理事業 : 逆浸透膜などの日本からの輸出において、コストダウンや円安を背景に採算が改善。また、韓国や中国の子会社の業績が堅調に推移。

国内 : エンジニアリング子会社でプラント工事が減少し、建設子会社ではマンション販売戸数が前年同期を下回った。

2Q累計
(4~9月)

水処理事業は、コストダウンの進展や円安を背景に、逆浸透膜などの日本からの輸出について採算の改善が進んだ。また、韓国や中国の子会社の業績が堅調に推移。

国内子会社は、エンジニアリング子会社でプラント工事が減少し、建設子会社ではマンション販売戸数が前年同期を下回った。

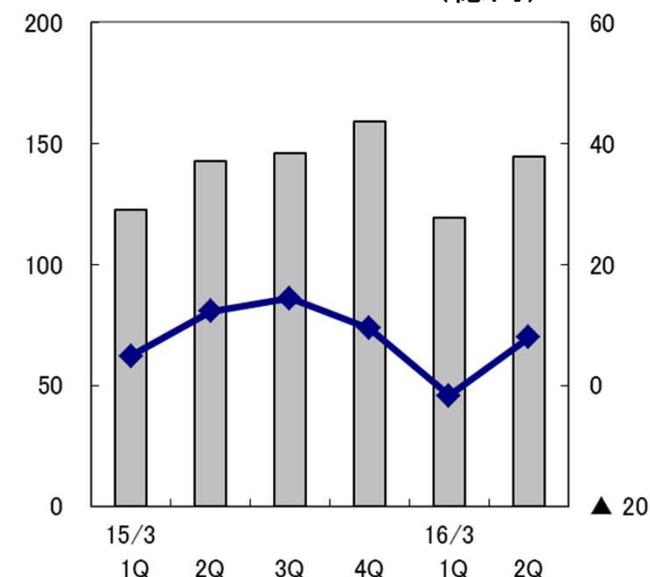
セグメント別業績(ライフサイエンス)

単位: 億円

		2Q(7~9月)				2Q累計(4~9月)			
		15年 3月期	16年 3月期	増減		15年 3月期	16年 3月期	増減	
売上高	東レ	88	91	+3	(+3.1%)	161	164	+3	(+1.6%)
	国内	98	103	+4	(+4.5%)	187	195	+9	(+4.6%)
	海外	18	27	+10	(+54.9%)	33	62	+29	(+88.3%)
	修正	▲ 62	▲ 76	-15		▲ 116	▲ 158	-42	
	計	143	145	+2	(+1.4%)	265	264	-1	(-0.5%)
営業利益	東レ	14	11	-3	(-20.2%)	20	6	-14	(-70.9%)
	国内	2	2	+1	(+38.0%)	1	4	+3	(+381.3%)
	海外	▲ 1	▲ 1	+0	(-)	▲ 1	▲ 1	+1	(-)
	修正	▲ 3	▲ 5	-2		▲ 2	▲ 3	-1	
	計	12	8	-4	(-34.9%)	17	6	-11	(-63.6%)

売上高
＜棒グラフ＞

営業利益
＜線グラフ＞
(億円)



2Q
(7~9月)

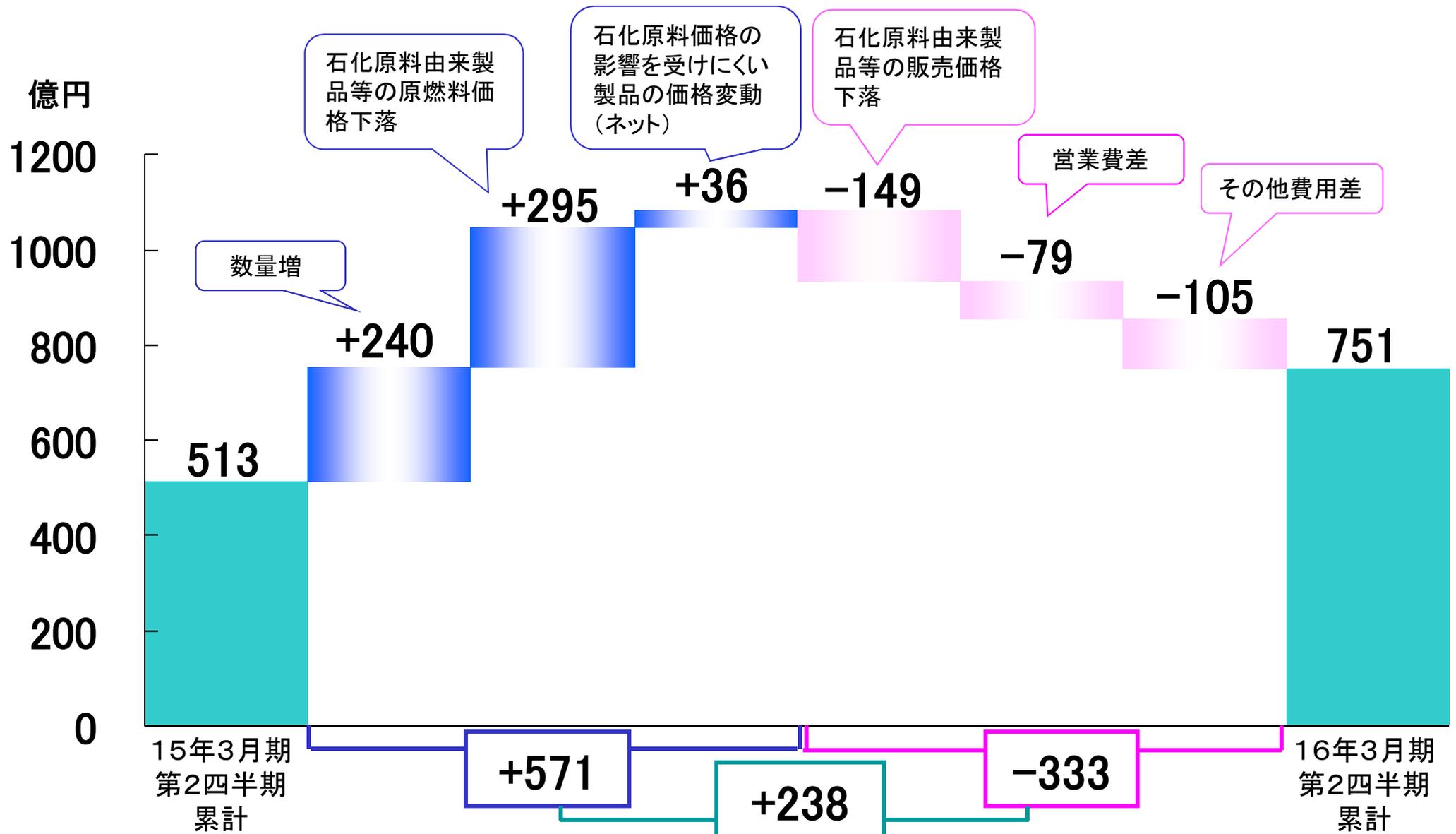
医薬事業は、血液透析患者向けの経口そう痒症改善剤は、5月にレミッチ[®]*の国内における慢性肝疾患向けの効能追加承認を取得するとともに、国内子会社が新薬ノピコール[®]の販売を開始したが、既存薬のフェロン[®]やドルナー[®]は競争激化の影響を受け低調に推移。医療機器事業は、ダイアライザーの出荷が拡大したことに加え、輸出採算が改善。

2Q累計
(4~9月)

医薬事業は、天然型インターフェロンβ製剤フェロン[®]や経口プロスタサイクリン誘導体制剤ドルナー[®]の出荷が低調に推移。経口そう痒症改善剤では、5月にレミッチ[®]*の国内における慢性肝疾患向けの効能追加承認を取得するとともに、国内子会社が新薬ノピコール[®]の販売を開始。医療機器事業は、ダイアライザーの出荷が拡大したことに加え、輸出採算の改善が進んだことから、業績は堅調に推移。

* レミッチ[®]は鳥居薬品株式会社の登録商標です。

営業利益増減要因分析(第2四半期累計期間)



石化原料由来製品等とは、繊維、プラスチック・ケミカル、炭素繊維複合材料セグメントの合計値。

主要子会社収益状況(第2四半期累計期間)

	売上高			営業利益		
	15年3月期 第2四半期累計 実績	16年3月期 第2四半期累計 実績	増減	15年3月期 第2四半期累計 実績	16年3月期 第2四半期累計 実績	増減
東レインターナショナル	2,583	2,789	+206	47	55	+8
東レエンジニアリング	346	309	-37	4	▲3	-7
東レ建設	260	206	-54	11	1	-10
東レフィルム加工	240	211	-29	12	5	-7
東レ・メディカル	187	195	+9	1	4	+3
TAK(韓国)	595	592	-3	52	60	+8
TPM(マレーシア)	354	349	-5	11	28	+17

億円

在東南アジア・子会社 * 1	繊維	608	650	+42	26	43	+17
	プラスチック・ケミカル	420	421	+1	16	34	+18
	その他	41	46	+5	2	4	+2
	計	1,068	1,116	+48	45	82	+37
在中国・子会社 * 2	繊維	936	1,441	+504	79	134	+55
	プラスチック・ケミカル	414	414	-0	13	17	+4
	その他	87	128	+41	▲1	4	+5
	計	1,438	1,983	+545	91	155	+64
在外・フィルム子会社 * 3	プラスチック・ケミカル	542	549	+7	28	36	+8
	情報通信材料・機器	326	312	-14	40	38	-2
	計	867	861	-6	67	74	+7

* 1: ITS、ETX、ISTEM、ACTEM、CENTEX、TPJ、PFR、PAB-G、TTS、LTX、TTTM、TPM 単純合計

* 2: TFNL、TSD、TJQ、TPN、TCH、TICH、TIHK、THK-G、TPCH-G、TPPH/TPPZ、TFH/TFZ、TBMC、TMQ、TFCC 単純合計

* 3: TAK、TCK、PFR、TPA、TFE、TFH/TFZ、TAFK 単純合計

セグメント別営業利益 1Qvs2Q比較

億円

セグメント	営業利益 16年3月期1Q→ 16年3月期2Q ()内差異	増減益要因
繊維	170→180 (+10)	・縫製品事業は、秋冬物の出荷がスタート。
プラスチック ・ケミカル	76→81 (+5)	・フィルムは、包装用途向けが国内外で堅調に推移。 ・樹脂は、1Qに引き続き国内自動車向けの需要が低調に推移。
情報通信材料 ・機器	58→62 (+4)	・電子部品向けフィルム・フィルム加工品は、堅調に推移。 ・ディスプレイ材料は、需要に力強さはなく、1Q比ほぼ横ばいで推移。
炭素繊維 複合材料	109→77 (-32)	・1Qには、前期末に見込んでいた出荷が一部ずれ込んだことに加え、まとめ出荷もあり、1Qから2Qにかけて出荷は減少。
環境・ エンジニアリング	▲0→16 (+17)	・建設子会社では不動産事業が堅調に推移し、エンジニアリング子会社も順調に工事が進捗した。
ライフサイエンス	▲2→8 (+10)	・医薬事業では、5月末に効能追加の承認を取得したレミッチ [®] *を拡販。 ・ライセンス収入が増加。
その他	1→4 (+3)	
調整額	▲42→▲47 (-6)	
連結	370→381 (+11)	

* レミッチ[®]は鳥居薬品株式会社の登録商標です。

Ⅱ. 2016年3月期連結業績見通し

2016年3月期連結業績見通し

		15年3月期 実績	16年3月期 見通し	対前年同期比 増減	前回見通し	前回見通し との差異*	億円
売上高	上期	9,480	10,286	+806 (+8.5%)	10,400	-114	
	下期	10,628	11,714	+1,087 (+10.2%)	-	-	
	通期	20,107	22,000	+1,893 (+9.4%)	22,500	-500	
営業利益	上期	513	751	+238 (+46.4%)	690	+61	
	下期	722	799	+77 (+10.7%)	-	-	
	通期	1,235	1,550	+315 (+25.5%)	1,500	+50	
経常利益	上期	565	755	+190 (+33.6%)	690	+65	
	下期	721	795	+74 (+10.3%)	-	-	
	通期	1,286	1,550	+264 (+20.6%)	1,500	+50	
親会社株主に 帰属する 当期純利益	上期	413	494	+82 (+19.8%)	420	+74	
	下期	298	406	+108 (+36.3%)	-	-	
	通期	710	900	+190 (+26.7%)	870	+30	
1株当たり 当期純利益	上期	25.70円	30.93円				
	下期	18.61円	25.37円				
	通期	44.33円	56.30円				
1株当たり 配当金	上期	5.00円	6.00円				
	下期	6.00円	6.00円				
	通期	11.00円	12.00円				

備考：為替レート的前提は、120円/US\$（10月以降）

*前回見通しとの差異：上期は2015年8月7日公表値との差異
通期は2015年5月8日公表値との差異

セグメント別業績見通し (売上高/営業利益)

億円

	15年3月期 実績			16年3月期 見通し			対前年同期比 増減			前回見通し との差異*		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	通期	
売上高	繊維	3,862	4,705	8,567	4,358	4,742	9,100	+497	+36	+533	+108	-100
	プラスチック・ケミカル	2,462	2,502	4,964	2,572	2,828	5,400	+110	+326	+436	-128	-300
	情報通信材料・機器	1,218	1,261	2,480	1,250	1,400	2,650	+31	+139	+170	-50	-150
	炭素繊維複合材料	766	817	1,584	943	1,057	2,000	+177	+240	+416	-7	+100
	環境・エンジニアリング	834	966	1,800	826	1,274	2,100	-8	+308	+300	-24	-50
	ライフサイエンス	265	305	570	264	336	600	-1	+31	+30	-16	-
	その他	72	71	143	72	78	150	-0	+7	+7	+2	-
	連結	9,480	10,628	20,107	10,286	11,714	22,000	+806	+1,087	+1,893	-114	-500
営業利益	繊維	228	328	556	350	320	670	+123	-9	+114	+50	+40
	プラスチック・ケミカル	117	122	239	157	153	310	+39	+32	+71	+7	+10
	情報通信材料・機器	103	142	245	120	130	250	+16	-11	+5	-10	-40
	炭素繊維複合材料	118	145	262	186	184	370	+68	+40	+108	-4	+50
	環境・エンジニアリング	21	59	80	16	84	100	-5	+24	+20	+6	-
	ライフサイエンス	17	24	41	6	34	40	-11	+10	-1	+1	-10
	その他	7	12	19	5	15	20	-2	+3	+1	+0	-
	調整額	▲ 98	▲ 110	▲ 207	▲ 89	▲ 121	▲ 210	+9	-12	-3	+11	-
連結	513	722	1,235	751	799	1,550	+238	+77	+315	+61	+50	

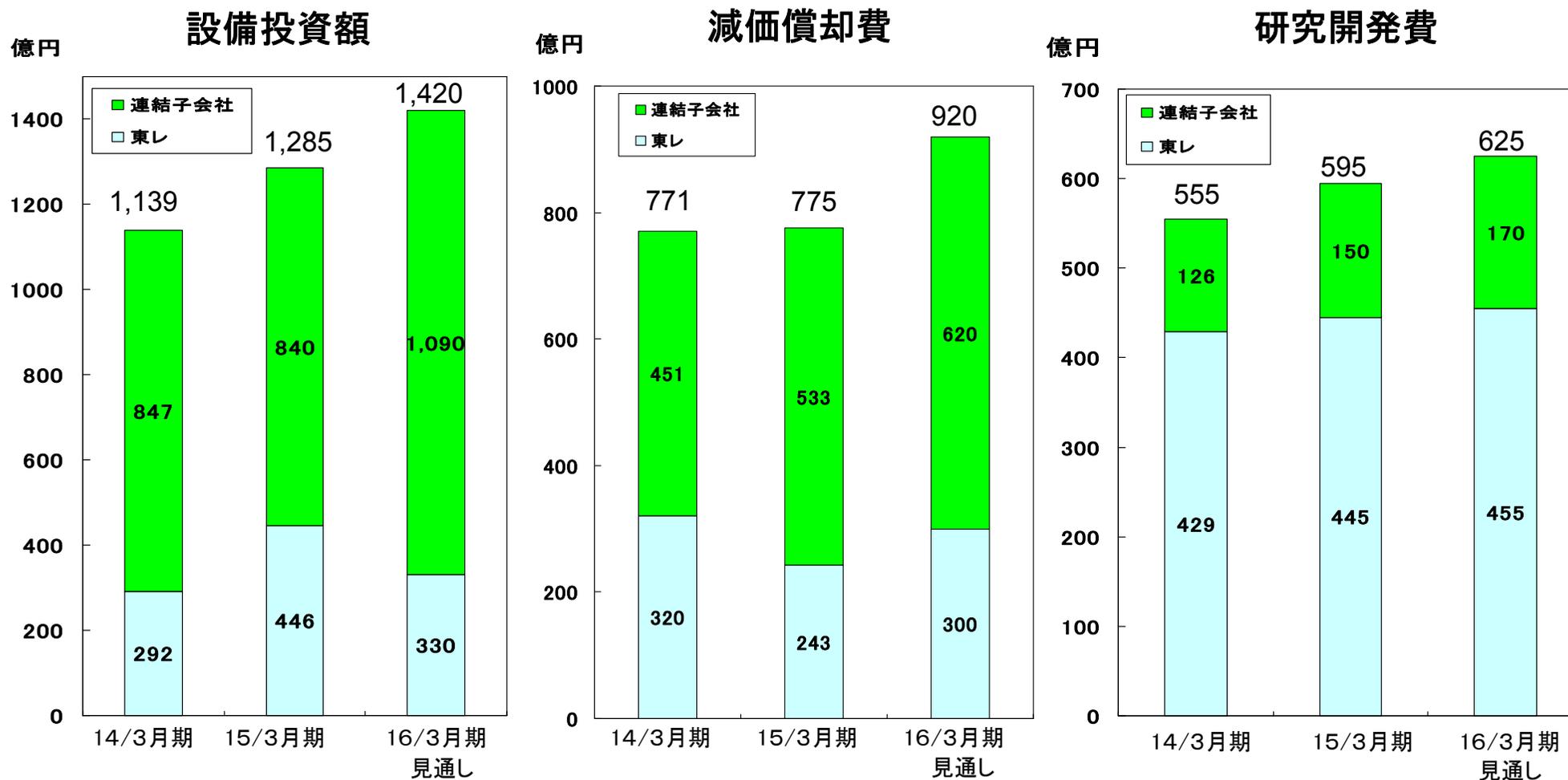
*前回見通しとの差異: 上期は2015年8月7日公表値との差異、通期は2015年5月8日公表値との差異

セグメント別営業利益の前回見通しとの差異

億円

セグメント	通期営業利益 前回見通し→今回見通し ()内差異	増減益要因
繊維	630→670 (+40)	・上期を中心に、海外の衣料用途向けや自動車関連用途向けが強含みで推移。 ・上期を中心に、糸綿／テキスタイル／製品一貫型事業が順調に推移。
プラスチック ・ケミカル	300→310 (+10)	・上期を中心に、海外の樹脂子会社が拡販および原価改善に注力。
情報通信材料 ・機器	290→250 (-40)	・ディスプレイ関連用途の需要は弱含む見通し。
炭素繊維 複合材料	320→370 (+50)	・航空宇宙用途と一般産業用途が好調に推移する見込み。
環境 ・エンジニアリング	100→100 (±0)	・ほぼ前回見通し通り。
ライフサイエンス	50→40 (-10)	・医薬品、医療機器とも前回見通しより弱含みで推移する見込み。
その他	20→20 (±0)	
調整額	▲210→▲210 (±0)	*前回見通しとの差異:2015年5月8日公表値との差異
連結	1,500→1,550 (+50)	

設備投資額・減価償却費・研究開発費見通し



本資料中の2016年3月期の業績見通し及び事業計画についての記述は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいています。

本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。

'TORAY'

Innovation by Chemistry